

1年間で4億7千万円もの税金が区画整理に使われることに反対です

ムダづかいストップ 子育て・福祉・暮らし 最優先の税金の使い方

一般会計から2億円もの税金が投入され、借金で2億7千万円。合計額4億7千万円もの税金を多くの方が反対する羽村駅西口区画整理事業に使うことに反対です。貧困と格差は羽村でも広がっています。最近の相談では「国民健康保険税の滞納で保険証がなく病院に行けない」「3人も子どもがいると給食費だけでも大変ですよ」という声も寄せられました。また、最低限度の生活を保障していたはずの生活保護

の基準がだんだん後退して、老齢加算がなくなり、今後は母子加算も無くなります。このような冷たい国の政治が続く中、地方自治体羽村市の役割は、この冷たい政治の防波堤となり市民の暮らし福祉を守り、さらに進めるということにあります。むだな区画整理事業に莫大な税金を投入することに反対です。

駅前広場にかかる地権者の合意がないまま、広場の計画だけが先に決められるのはおかしいのではないのでしょうか

駅前広場にかかる地権者は14人です。自分が今まで住んできた家が壊され駅前広場になるのですから関係地権者・借家人の方は「今後自分の家はどうなるのだろう」といった不安、また、「このまま商売を続けていけるのだろうか」といった、大変深

刻なものがあるのではないのでしょうか。ところが市は、14人の方の合意を得ないままに羽村駅前広場の設計を決めてしまいました。家屋調査は2軒しか終わっていません。

換地設計基準の説明会には地権者

1300人のうちわずか199人の参加でした。

区画整理のこれ以上の強行はやめ、話し合いを!

換地設計基準の説明会には地権者1300人のうちわずか199人の出席しかありませんでした。この説明会は今後土地評価・仮換地へと進める上で地権者にとって知らなかったでは済まない内容を含んでいます。欠席者へ対面して説明するという気持ちが市にないことは問題です。また、欠席者がたくさんいるのを承知で次の手続きを進めようとしています。これ以上の強行は止め、話し合いをすべきです。

西口区画整理事業を本格推進する特別会計そのものに反対

西口区画整理事業は、広がった地権者の全く知らない所で決められ、驚いた関係者が市に「チョット待って話し合いをして欲しい。進めないでほしい」と要望していましたが、聞き入れられずに強行されてきています。その間何度も署名が集められ市に提出されています。つまり、市は地権者全員と合意が取れていないことを承知しながら、都市計画決定・事業認可決定と事業を進めて来たのです。

関係市民の財産を減歩・清算金という名で出させて、道路をつくり増やすことが区画整理事業です。図書館やゆとりぎを建設するのは違います。今多くの関係者が反対をしているのですからこの事業は白紙または凍結をすべきです。

